2021.10.21

プレスリリース

上映・講演会：庭をめぐる対話

日時：10 月 28 日（木） 18:00～20:00

会場： アンスティチュ・フランセ関西ー京都

ヴェルサイユ宮殿 首席庭師 x 京都の職人 x フランス人ランドスケープアーキテクトが離れたままで交わす、3 つの対話

パンデミック下、日本とフランスの庭園を見つめた稀有な作品

「庭をめぐる対話」は、在日フランス大使館とアンスティチュ フランセ関西、そして京都の老舗造園会社の植彌加藤造園とのコラボレーションで生まれました。ヴェルサイユ宮殿の主席庭師と、京都の職人、ランドスケープアーキテクトがパンデミック状況下で交わした、これからの都市と自然についての対話の記録。新型コロナウイルスの感染が世界に広がる中、リモートで制作されたフランスと日本の合作映画です。

日時：10 月 28 日（木） 18:00～20:00
会場： アンスティチュ・フランセ関西ー京都 稲畑ホール
入場無料・WEB サイトより要予約（人数制限あり）：
※映画：日本語、フランス語（字幕付き）、 50 分
※上映後トークあり 登壇予定：山田咲 監督、吉川大輔（植彌加藤造園）、日仏逐次通訳付き

■ 予告編 ■
https://youtu.be/fUAdTw0Zayw

共同制作： 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本、植彌加藤造園株式会社
助成：ヴェオリア・ジャパン株式会社、
アンスティチュ・フランセパリ本部

※当イベントはニュイ・ブランシュ KYOTO 2021 のクロージングを飾るイベントです。
ニュイ・ブランシュ KYOTO 公式サイト：https://nuitblanche.jp/

※「庭をめぐる対話」は 10 月 26 日、アンスティチュ・フランセ九州（福岡）においても上映されます

山田 咲 監督 メッセージ

「子どもの頃の原風景はありますか？自分が死ぬ時、どんな景色の中にいたいですか？人にとっての景色とは、庭とは、をこの映画は問いかけます。職人や、景観デザイナー、都市計画を立案する人々の役割とはどのようなものでしょうか、なぜ人は庭を作るのでしょうか？ 庭園空間の恩恵を受けるのはどのような人々でしょうか? 公共空間を大切にすることは、都市生活を快適なものにするために役立つことなのでしょうか？ さらには生物多様性の保全にも資することなのでしょうか?

この映画は、6 人の日仏の庭のプロフェッショナルによる対話によって紡がれます。コロナ状況下で離れたままに、6 人の登場人物が自身の経験とこれまで語ることのなかった人生、庭と景色について、手紙と録音を通じて語ります。日仏の景色と庭園が織り成す作品世界は、日仏の自然への愛着の違い、そして共通点を浮き彫りにすることでしょう。」

庭園の画像を使用:
国指定名勝無鄰菴、真宗大谷派（東本願寺）、ヴェルサイユ宮殿庭園、パリ市マーティン・ルーサー・キング公園

登場人物: アラン・バラトン、ジャクリーヌ・オスティ、水真洋子、山田咲、加藤末男、吉川大輔

・　アラン・バラトン氏

1957 年 9 月 10 日生まれ。1976 年ヴェルサイユ宮殿で庭師としてのキャリアをスタートし、1982 年にはヴェルサイユ宮廷公園のトリアノン国立庭園の主席庭師となる。毎週土日の朝、フランスのラジオ局 France Inter の「緑の朝」という番組で庭園への情熱をリスナーに語る。フランス国立公園庭園理事会メンバー、フランス国立農業アカデミーのコレスポンダントも務める。2014 年よりテレビ局 France 5 の番組の司会も務めている。

・　ジャクリーヌ・オスティ氏

1954 年モロッコはカサブランカに生まれる。2020 年フランス都市計画大賞受賞。2005 年と 2018 年にもフランス景観大賞受賞。フランス国立ヴェルサイユ景観大学院で学んだ後、景観デザイナーとして数多くの国内外の公園、都市計画に携わる。代表的な作品として、アミアンのサン・ピエール公園、パリ 12 区の動物園、ナント島の景観、2018 年の景観大賞に輝いたルーアン左岸のプロムナード、ランスのプロムナードなどがある。

・　水真洋子

1978 年大阪府生まれ。琉球大学農学部卒業後、青年海外協力隊の植林隊員及び NGO《緑のサヘル》の職員として 4 年間ブルキナ・ファソで緑化活動に従事。2008 年、フランスの名門校・国立ヴェルサイユ高等造園学校にて造園学を専攻。ヴェルサイユ国立高等造園学校付属研究室に所属し、「日本の公園 におけるフランス造園学の影響 」で博士論文執筆。日仏の造園に従事者の架け橋となり、視察コーディネートや講演など、多岐に渡り活躍中。

・　山田　咲

植彌加藤造園　知財企画部長。1980 年生まれ。東京都出身。慶応義塾大学文学部哲学科卒業、東京芸術大学大学院映像研究科修了。現在、京都で創業 170 余年の植彌加藤造園の知財企画部長を務める。国指定名勝無鄰菴をはじめ、世界遺産・高山寺、大阪市指定名勝の慶沢園などで、学術研究成果に基づいた文化財庭園の活用のモデルを推進。開発した[文化財の価値創造型運営サービス]が 2020 年度グッドデザイン賞受賞。他方で舞台芸術作品の制作などにも関わり、文化的領域を横断した活動を続けている。

・　加藤末男氏

京都造形芸術大学　大学院芸術研究科芸術環境専攻環境デザイン領域日本庭園分野終了。植え加藤造園株式会社。平成 14 年に発足した文化庁の選定保存技術保存団体である文化財庭園保存技術者協議会の正会員となり、京都をはじめ、全国各所の文化財庭園の修理現場の指導に携わる。現在、庭義協代表として後進の指導にあたる。

・　吉川大輔氏

植彌加藤造園所属の庭師。2020 年 10 月に開催された日本造園学会関西支部大会にて「特別史跡特別名勝平城京左京三条二坊宮跡庭園の復原整備工事における植栽管理と地割りについて」と題する共同研究を発表し、2020 年度日本造園学会関西支部賞を受賞した

新型コロナウイルス感染予防対策について

・入場の際は必ずマスクの着用をお願いします。

・人と人の間隔はなるべく空けてください。こまめに手洗い、手指の消毒をしてください。

・イベント開催前 10 日間及び当日に以下に該当する場合には入場をしないでください。

体温が 37.5℃以上の場合 / 咳・咽頭痛の症状がある場合 / 過去 2 週間以内に海外から帰国した場合 / 感染症陽性者とその濃厚接触者であるなど、保健所などの健康観察下にある場合 / その他体調がすぐれない場合（味覚・嗅覚異常、強い疲労倦怠感等）

リリースに関するお問い合わせ　アンスティチュ・フランセ関西　広報担当：長谷川（火～土）
satoko.hasegawa@institutfrancais.jp　Tel 075-761-2168(直) https://www.institutfrancais.jp/kansai/